





私たちを取り巻く現代の社会は常に、災害や開発といった不確実な変化や危機に晒されています。京都の長い歴史の中で様々な変化や危機を乗り越えて受け継がれてきたお地蔵さまと地蔵盆には、私たちや地域のコミュニティが備えておくべき“レジリエンス”（不確実な変化や危機に対処する“柳の木の枝”のような“しなやかな強さ”）を備えていると思われます。そこで私たち京都大学高田研究室では、この“レジリエンス”という観点から、地蔵盆が地域のまちづくりに果たす役割について調査・研究を行っています。

\*地蔵盆は、地蔵菩薩の縁日かつお盆（8月24日）を中心として行われる行事です。地蔵信仰という宗教的な性格を持ちながらも、町内安全や子どもの健康を願い、時代とともに変化しながら受け継がれてきました。地蔵盆は、京都のまちなかでは町内（両側町）ごとに住民によって運営され、コミュニティの維持に重要な役割を果たしてきました。

京都大学高田研究室では、「住居・住環境デザイン」（専門家の領域）、「社会システム」（事業者・行政の領域）、「まちづくり」（住民の領域）を結びつけ、持続可能な社会に適合した居住空間づくりに関する実践的研究を展開しています。



高田光雄（教授） 前田昌弘（助教） 森重幸子（研究員） 長谷川直子（秘書）  
D：土井 趙 金 山田 M2：山崎 大森 久保 江川 ケント 柳樂  
M1：田中 藤田 牛山 福地 B4：丹羽 柴田 黒柳 桐谷

## 調査・研究

地蔵盆を京都のコミュニティの“核”と捉え、まちづくりの視点から地蔵盆の現代的価値の再評価と活用の方法を探るためにアンケート、インタビュー、現地観察など、様々な調査・研究を行っています。今回は2012年夏に行った町内会長の方々へのアンケート、および地蔵盆当日の現地調査の結果を中心にご紹介します。



## まちづくり活動への参画

京都市下京区における「有隣まちづくり委員会」の活動、7つの元学区連携による「松原通境界活性化活動プロジェクト委員会」の活動に参加し、現場の経験に学びつつ研究を行っています。有隣元学区では近年、地蔵盆に加え、伝統産業・工芸など地域の歴史・文化を活かした新たなまちづくり活動が展開しています。



## 情報共有・発信

研究成果は学会（日本建築学会、こども環境学会など）、京都市景観・まちづくりセンターのセミナー、大学コンソーシアム京都などで発表し広く発信してきました。今年度は中国・揚州で開催された「第14回世界歴史都市会議ユースフォーラム」で京都市代表として発表し、京都の地蔵盆を世界に発信してきました。





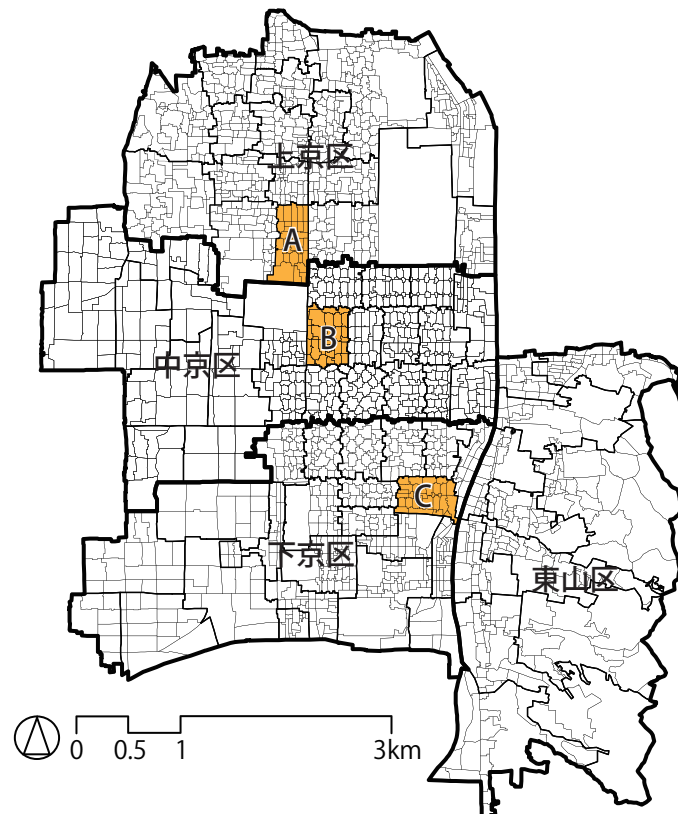
## ■ 都心地域の課題と地蔵盆への期待

京都市の都心部では「町内」（両側町）－「元学区」という重層的なコミュニティをベースとして、都市居住と地域自治の文化が育まれてきました。しかし近年は、少子高齢化や都心回帰の影響により、小学校の統廃合やマンションの乱開発などが発生し、コミュニティは不確実な変化に晒されています。町内会の弱体化も懸念されるなか、多世代が参加する行事である地蔵盆には、価値観の異なる多様な人々を結びつける役割が期待されます。

### 京都市都心4区と調査対象地区の概要（2010年時点）

	人口	世帯数	共同住宅 世帯率 (%)	町内数 (*)
A. 待賢元学区	3,913	2,084	56.8	29
B. 城巽元学区	4,902	2,918	80.6	28
C. 有隣元学区	4,283	2,793	80.4	27

\* マンション町（マンション一棟で町内会を構成する町内）を含まない



京都市都心4区と調査を行った地区（元学区）の分布

## ■ 地蔵の有無と保管場所

### 町内で保管しているお地蔵さまの有無

	A.待賢		B.城巽		C.有隣		合計	
	町内数	%	町内数	%	町内数	%	町内数	%
あり	23	85.2	17	70.8	23	76.7	63	77.8
なし	3	11.1	6	25.0	7	23.3	16	19.8
その他	1	3.7	1	4.2	0	0.0	2	2.5
合計	27	100.0	24	100.0	30	100.0	81	100.0

- ➡ 8割弱の町内がお地蔵さまを町内で保有している。  
普段は町外のお寺等に預けているケースもある。

### 町内で保管しているお地蔵さまの形質(複数回答)

	A.待賢		B.城巽		C.有隣		合計	
	町内数	%	町内数	%	町内数	%	町内数	%
石像	16	55.2	14	51.9	13	52.0	43	53.1
木像	13	44.8	9	33.3	11	44.0	33	40.7
掛け軸	0	0.0	4	14.8	1	4.0	5	6.2
合計	27	100.0	27	100.0	25	100.0	81	100.0

- ➡ お地蔵さまの形質は石像が5割強、木像が約4割である。掛け軸もある(下記の写真参照)。

### 地蔵の保管場所(複数回答)

	A.待賢		B.城巽		C.有隣		合計	
	町内数	%	町内数	%	町内数	%	町内数	%
道路・路地沿い	2	6.5	1	4.8	10	35.1	13	16.3
個人宅の敷地内	19	61.3	11	52.4	3	10.7	33	41.3
マンションの敷地内	2	6.5	1	4.8	5	17.9	8	10.0
寺院の敷地内	3	9.7	1	4.8	6	21.4	10	12.5
その他	5	16.1	7	33.3	4	14.3	16	20.0
合計	31	100.0	21	100.0	28	100.0	80	100.0

- ➡ 道路・路地沿いは約1.5割。個人宅(4割強)、マンション(1割)、寺院(1割強)等、敷地内が多い。



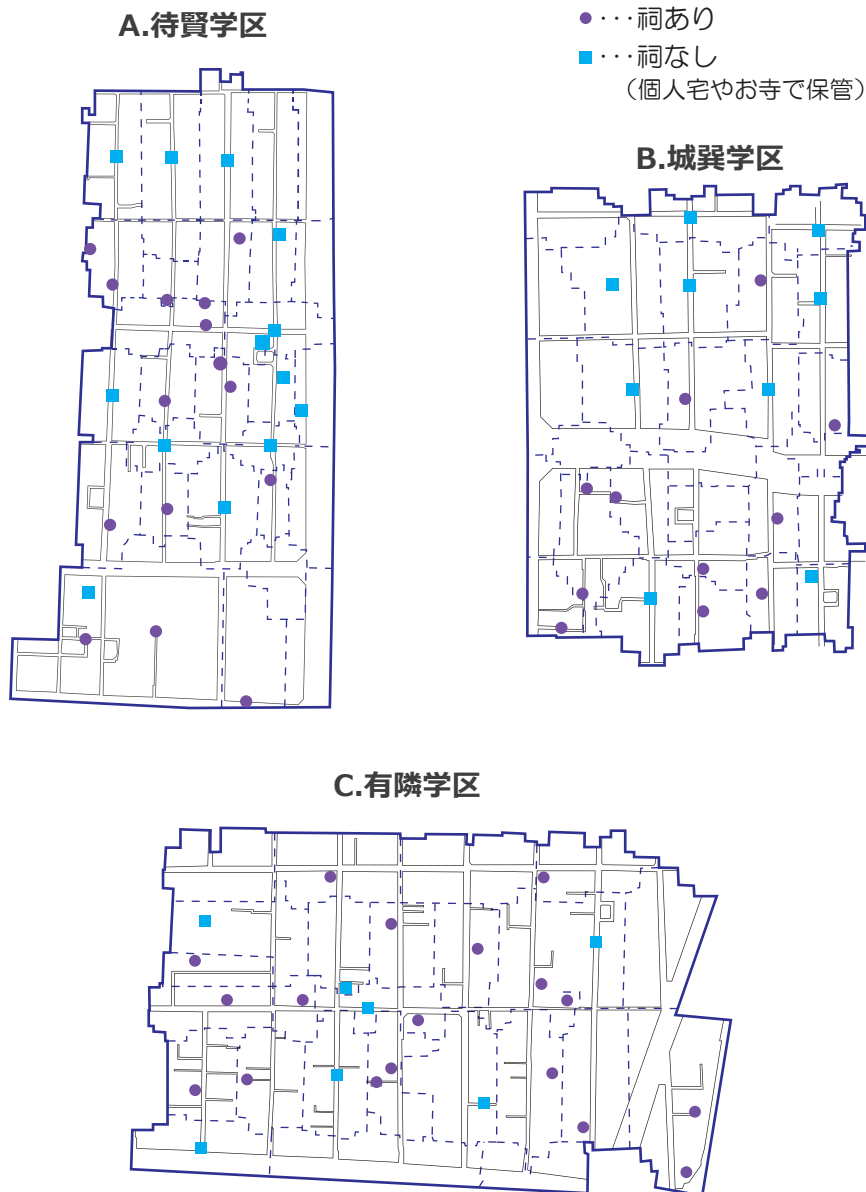
石の地蔵(屋外の祠で保管)



掛け軸の地蔵(室内で保管)

## ■ 地蔵の地理的分布

下記の図から、3つの元学区では、ほぼ全ての町内がお地蔵さまを保有していることがわかります。お地蔵さまには、通り沿いの祠などで保管されているものだけでなく、個人宅やお寺などで保管されており、普段は人の目に触れないお地蔵さまも多いことがわかります。



## ■ 地蔵盆の有無、内容、位置付け

### 地蔵盆の開催の有無

地蔵盆	元学区		A.待賢		B.城巽		C.有隣		合計	
	町内数	%	町内数	%	町内数	%	町内数	%	町内数	%
あり	24	88.9	20	83.3	24	80.0	68	84.0		
なし	3	11.1	4	16.7	6	20.0	13	16.0		
合計	27	100.0	24	100.0	30	100.0	81	100.0		

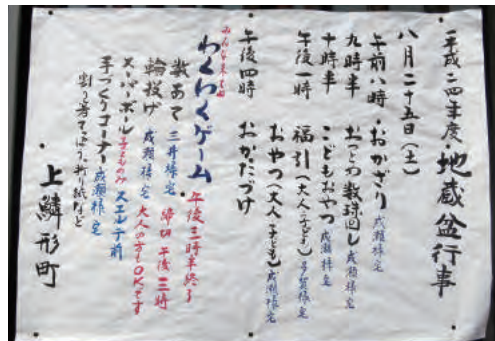
➡ 8割を超える町内が地蔵盆を開催する（2012年時点）。

### 地蔵盆の行事の内容(複数回答)

行事内容	元学区		A.待賢		B.城巽		C.有隣		合計	
	町内	%	町内	%	町内	%	町内	%	町内	%
仏事系	地蔵のお飾り	21	87.5	18	90.0	23	95.8	62	91.2	
	数珠まわし	15	62.5	11	55.0	14	58.3	40	58.8	
	仏僧による読経	17	70.8	13	65.0	21	87.5	51	75.0	
	お寺のお参り	1	4.2	1	5.0	2	8.3	4	5.9	
配布系	おやつのお下がり	20	83.3	15	75.0	16	66.7	51	75.0	
	お供えのお下がりの配布	18	75.0	18	90.0	17	70.8	53	77.9	
	子ども向けの福引	15	62.5	8	40.0	11	45.8	34	50.0	
	大人向けの福引	11	45.8	6	30.0	9	37.5	26	38.8	
遊び系	子どもの遊び(金魚すくい等)	12	50.0	8	40.0	9	37.5	29	42.6	
	ゲーム(ビンゴ・数当て等)	12	50.0	7	35.0	12	50.0	31	45.6	
食事系	ショー・出し物	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
	昼食会	6	25.0	4	20.0	7	29.2	17	25.0	
	夕食会	8	33.3	3	15.0	2	8.3	13	19.1	
	足洗い	9	37.5	10	50.0	6	25.0	25	36.8	
	ホテル等での懇親会	1	4.2	0	0.0	1	4.2	2	2.9	
その他	3	12.5	2	10.0	4	16.7	9	13.2		

- 非常に多く（7割以上）の町内で行われている行事
- 多く（4割弱以上～7割未満）の町内で行われている行事
- その他(4割弱未満)の行事

➡ お地蔵さまのお飾りや読経、おやつやお下がりの配布のように非常に多くの町内で行われている行事以外にも様々なものがあり、行事内容には選択性がある。



地蔵盆のスケジュール案内の例



# 地蔵盆の特徴ある様々な行事 — 仏事系、配布系、遊び系、食事系、その他

## ■ 仏事系

### お飾り

地蔵盆は、お地蔵さまを祭壇に祀り、装飾やお供えを施すところから始まります。町内毎に様々な趣向が凝らされています。写真の町内では、地蔵菩薩と大日如来が並んで飾られ、その下段に花やお供え物が飾られています。



### 数珠まわし

お坊さんのお経に合わせて直径2～3mの大きな数珠を輪になって座った町内の子どもたちが廻します。子どもが少なくなってきたこともあり、大人たちも輪に加わって、数珠まわしを行っている町内も多いようです。



### 読経

お寺のお坊さんにお地蔵さまの前でお経をあげてもらいます。子どもの安全祈願や先祖の供養等のため、お地蔵さまに向かって手を合わせ、お経を唱えます。お坊さんは地蔵盆の参加者全員でお迎えます。



### お参り

お地蔵さまを町外のお寺に預けている町内の中には、預けているお寺へお参りに行く町内もあります。お参りの後、ホテルなどで足洗をする町内もあるようです。

## ■ 配布系

### おやつ・お供えのお下がりの配布

子どもにおやつを配ったり、お地蔵さまへのお供えのお下がりを参加者に配ります。おやつは地蔵盆の世話役が事前に町内の人数に応じて過不足がないよう購入しておきます。地蔵盆に当時参加できなかった住民にも後日届けるという町内もあるようです。



### 福引き

福引きは、地蔵盆のなかで最も盛り上がる行事の一つです。福引きには、玩具や文房具等が景品の中心である「子ども用福引き」と家庭用品やギフトセット等が中心である「大人用福引き」があります。景品は地蔵盆の世話役が町内の住民構成を踏まえ、百貨店などで事前に購入します。今では少なくなってきましたが、写真のように通りの向いの家の二階から景品が入ったかごをロープで降ろす「畚（ふご）おろし」を行う町内では、子どもたちをより一層楽しませています。



## ■ 遊び系

### 子どもの遊び

子どもが減ってきたとはいえ、地蔵盆の主役はやはり子どもたちです。各町内で、趣向を凝らした遊びがみられます。道路や空き地などの屋外空間をうまく使うことで、スイカ割りやボールすくいなど、普段、家の中ではできないような遊びを実現しています。町内によっては、車を通行止めにしたり、のぼりで徐行を促したりしているところもあります。



### ゲーム/ショー・出し物

子どものための遊び以外にも、町内の人々の親睦を深めるための催し物が行われ、地蔵盆を盛り上げています。定番のビンゴ大会のほかにも、数当てゲームやルーレットゲームなど、町内ごとに趣向を凝らしています。以前は、漫才師や大道芸人を呼んでショーをしてもらう町内も多くあったそうですが、調査を行った3学区ではそういった町内は見られませんでした。下の右側の写真は、町内の人によるマジックショーの様子です。



## ■ 食事系

地蔵盆では食事はそれぞれの家でとることが一般的ですが、地蔵盆当日に町内でバーベキュー大会や食事会をすることもあるようです。地蔵盆後に行う町外での足洗いなど、地蔵盆は町内の人々が親睦を深めるきっかけにもなっています。暑い夏を涼しく過ごすために皆でカキ氷やスイカを食べる町内もあります。



## ■ その他

その他にも、様々な行事を工夫して加えられることも地蔵盆の特長です。消防署との連携による消火訓練やAED講習会、路上で行う秋の学区運動会の練習などは、町内の住民が一同に会する地蔵盆という行事の性質を活かした行事です。また、子どもの多い町内では子供の描いた絵を飾ったり、子どもの少ない町内では、大人向けのガーデニングをしたり、御詠歌奉納を行ったりして、それぞれの事情に応じて行事が選択されています。



## 地蔵盆がもつ柔軟性

地蔵盆には、さまざまな開催の方式（人数、日程、内容、位置づけ）があり、それぞれの町内の事情に応じてやり方を選択・変更できる“柔軟性”があると考えられます。

### 地蔵盆の開催規模(参加呼び掛け人数)

	A.待賢	B.城巽	C.有隣	全体
最大	112	135	83	135
最小	20	13	3	3
平均	約61	約48	約40	約50

➡ 地蔵盆の参加者数（呼びかけを受けた人数）は、平均40～60人だが、最大135人、最小3人と幅が大きい。

### 地蔵盆の開催日数

地蔵盆	元学区		A.待賢		B.城巽		C.有隣		合計	
	町内数	%	町内数	%	町内数	%	町内数	%	町内数	%
1日	16	66.7	15	75.0	24	100.0	55	80.9		
2日	8	23.3	5	25.0	0	0.0	13	19.1		
合計	24	100.0	20	100.0	24	100.0	68	100.0		

➡ かつては2日以上に渡って開催されることも多かったようだが、現在は1日のみの開催が約8割を占める。

### 地蔵盆の開催日程

地蔵盆	元学区		A.待賢		B.城巽		C.有隣		合計	
	町内数	%	町内数	%	町内数	%	町内数	%	町内数	%
8月18日	10	41.7	4	20.0	1	4.2	15	22.1		
8月19日	14	58.3	11	25.0	16	66.7	41	60.3		
8月25日	2	8.3	3	15.0	3	12.5	8	11.8		
8月26日	2	8.3	4	20.0	2	8.3	8	11.8		
その他	2	8.3	2	10.0	1	4.2	5	7.4		

➡ 本来は24日（地蔵菩薩の縁日）に開催されるが、実際は参加者が募りやすい土日や盆休みに開催されている。

### 町内における地蔵盆の位置付け(複数回答)

位置付け	元学区		A.待賢		B.城巽		C.有隣		合計	
	町内	%	町内	%	町内	%	町内	%	町内	%
子どもの安全の祈願	18	75.0	13	65.0	19	79.2	50	73.5		
先祖の供養	10	41.7	10	50.0	14	58.3	34	50.0		
商売繁盛の祈願	3	12.5	0	0.0	1	4.2	4	5.9		
大人の集まり	4	16.7	2	10.0	6	25.0	12	17.6		
地域住民の親睦	20	83.3	18	90.0	21	87.5	59	86.8		
家族・親戚が集まる機会	1	4.2	1	5.0	1	4.2	3	4.4		
町内の伝統行事	19	79.2	15	75.0	19	79.2	53	77.9		
地蔵があるので続ける行事	11	45.8	12	60.0	14	58.3	37	54.4		
世話役が回って来るので続ける行事	5	20.8	5	25.0	6	25.0	16	23.5		

➡ 「子どもの安全祈願」や「先祖の供養」といった従来の位置づけに加え、「住民の親睦」、「大人の集まり」といった新しい位置づけも現れています。また、「地蔵があるので続けてきた」という事情もあるようです。



## case1：今もにぎやかに行われている地蔵盆

地蔵盆の主役は基本的に、昔も今も子どもたちです。少子化が進んでいるとはいえ、京都の都心部には今も子どもが沢山いる町内が存在しており、そういった町内を中心として、多くの参加者を集め、様々な行事が行われる、にぎやかな地蔵盆が開催されています。ここではその“にぎやかさ”を保つ様々な工夫の一部を紹介します。

### ◇行事内容の工夫—種類の豊富さとメリハリの創出

A町では2日間に渡って行事を行っています。数珠まわしや福引など地蔵盆の定番とも言える行事に加え、子どもが一斉に集まる時間を設け、記念撮影をしているようです。小さな子どもを持つ親には子どもの成長を実感する機会となり、喜ばれているようです。また、お寺の境内を利用して子どもたちが一日中遊んでいました。

B町は、1日のみの開催ですが、子どもを楽しませる遊びがとても充実しています。「わくわくゲーム」と称して、時間を限定せずに数あて、輪投げ、ボールすくい、手作りコーナー（割り箸でっぼうや折り紙を作る）などを用意しています。

このように「プログラムに沿って、決められた時間に行う行事」と「時間は特に決められておらず、会場に来た人たちがいつでも楽しめる行事」の両方があることでメリハリと余裕が生まれています。



#### A町の地蔵盆スケジュール

##### 1日目

7:00 準備  
10:00 おやつ プール  
11:00 子どもおにぎり  
15:30 スーパーボールすくい  
17:30 子ども写真撮影 行灯点灯  
18:00 バーベキュー大会  
19:30 花火

##### 2日目

8:30 開会  
10:00 おやつ プール  
12:00 子どもハンバーガー  
13:00 子ども福引  
14:00 ヨーヨー釣り 輪投げ  
15:00 大人福引  
16:30 数珠回し  
18:00 後片付け

## A町

## B町

#### B町の地蔵盆スケジュール

##### 1日のみ

8:00 お飾り  
9:30 数珠回し  
10:30 子どもおやつ  
13:00 福引（大人・子ども）  
おやつ（大人・子ども）  
16:00 後片付け

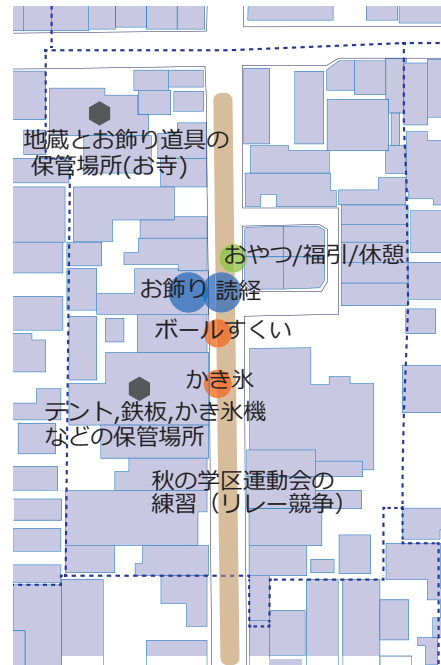


## ◇会場の工夫－様々な場所・空間を使った演出

A町では、町内のお寺の境内を主に使いますが、加えて、その年度の世話役のお宅に福引の景品を飾ったり、手作りの行灯を道路沿いに並べたり、町内のあらゆる場所・空間を地蔵盆に利用することで、町内に一体感を生んでいます。

C町では、お地蔵さまのお飾りを町家の土間とミセの間で行っていますが、通りにテントや床几を置くことで不足するスペースを補っています。さらに、向かいの建物の二階からカゴとロープを使って福引の景品を降ろす「ふごおろし」や、秋の学区運動会に向けた通りをリレーのコースに見立てた練習等、町内の場所・空間を最大限に活用しています。

このように、にぎやかに地蔵盆を行っている町内では、町内の様々な場所・空間を利用して演出をしています。



C町の地蔵盆の会場構成



### C町の地蔵盆スケジュール

#### 1日目

15:00 お飾り  
19:00 ピンゴゲーム

#### 2日目

9:00 読経  
10:00 おやつ  
福引  
11:00 ボールすくい  
12:00 焼ソバ  
14:00 カキ氷  
15:00 片付け

## C町





## case2 : こじんまりとでも持続する地蔵盆

### ◇こじんまりとでも続けられる地蔵盆の意義

地蔵盆にはにぎやかなものだけでなく、参加人数や行事の数が少なく、こじんまりとした地蔵盆も多くみられます。こういった地蔵盆は、つい数年前まではにぎやかでしたが、町内に子どもがいなくなり規模を縮小したというケースも多いようです。逆に、町内のマンション建設などにより子どもが増え、最近にぎやかさを取り戻したケースもみられます。このように、こじんまりとでも続けられている地蔵盆にもちゃんと意味があり、このような地蔵盆にこそ、コミュニティの“核”としての意義が見いだせると思われれます。

### ◇会場となる場所・空間不足の問題への対応

地蔵盆の規模が縮小する要因として、子どもの数の減少とともに、場所の問題があります。自動車交通量の増加や住宅形式の変化により、地蔵盆に使える場所が少なくなっているのです。しかし、そのような状況にも地蔵盆は柔軟に対応しています。屋根がかかった空間が確保できない場合でも、お地蔵さまを安置している祠の周辺の小さな空間を利用したり（D町,E町、F町）、高層の建物の谷間にある小さな住宅の室内で行っていたり（G町）、あるいは、昔ながらのやり方で町家の格子窓を地蔵盆の時には取り外してスペースを広げて使っていたりします（H町）。



## case3 : 町内の多様な住民の交流を支えている地蔵盆

### ◇新旧住民の交流の“触媒”としての地蔵盆

地域に元々住んでいた人々が、マンションやミニ開発などを中心として町内に最近住み始めた住民と関わりをもつ際に地蔵盆が役立つケースがみられます。マンション等に多い小さな子どもを持つ世帯にとって地蔵盆は子育ての良い機会になり、元々の住民にとっては参加者が増えて町内が盛り上がるきっかけとなるなど、お互いにとって地蔵盆は有意義です。このような、地蔵盆を“触媒”とした住民どうしの関わりが、普段の町内会等の地域の活動にも良い影響を及ぼしていることがあります。

### ◇地蔵盆による地域への関わり方の豊富化

上述のB町では、町内にファミリー向けマンションが建った際に入居者の歓迎会を催し、現在は新旧住民の垣根を越えて住民が地蔵盆や町内会の運営を担っています。C町も一時期は子どもが減少し活気を失っていたようですが、町内に建設されたマンションの若い世帯を取り込むことに成功しています。まずは地蔵盆に参加してもらい、地域のことをだんだんわかり始めた頃に町内会への加入を勧めたそうです。また、マンションの共用空間（I町,K町）、ミニ開発の空間（J町）などが地蔵盆の会場となるケースなどもあり、地蔵盆を通じて地域への多様な関わり方が生まれています。





## case4：あたらしい地蔵盆のかたち —時代の変化への対応

地蔵盆は子どものためのお祭りとして続いてきましたが、近年は少子化の流れを受けて消滅の危機にあるとも言われています。このような状況のなかでも地蔵盆を続けていく上で、近年、行事の内容だけでなく、地蔵盆の位置付けそのものにも変化がみられます。

### ◇大人だけの地蔵盆

少子化が進むなか、地蔵盆に対して「大人の集まり」という新しい位置づけがされています。L町では、子どもの参加はゼロですが、大人だけで様々な行事をしています。数珠まわしや輪投げなどの定番行事に加え、ガーデニングを行っており、作成した鉢植えは町内の路地に飾られます。

また、「子どもが少なくなっても、お地蔵さまがあるのでお祀りしなければならぬ」というお話も聞かれ、お地蔵さまの存在が地蔵盆を続ける原動力になっていることが伺えます。



### L町の地蔵盆スケジュール

#### 1日のみ

- 10:00 読経 数珠回し
- 11:00 ガーデニング
- 13:00 わなげ
- 14:00 大人供養
- 15:00 後片付け
- 18:00 食事会



## L 町

#### ◇地蔵盆と福祉施設の連携

幹線道路沿いにあるM町では、戸建ての住宅が少なく、町内の住民だけでは今ひとつ盛り上がりには欠けます。そこで、町内にあるデイケアサービスセンターが地蔵盆の際に会場を提供し、施設の利用者も参加することで、地域の住民や子どもがお年寄りとおふれあう機会が設けられています。1Fの畳の間に子どもが座り、お年寄りは椅子に座って一緒に数珠まわしを行います。また、ヨーヨー釣りで遊ぶ子どもたちと、それを見守るお年寄りの姿なども見られました。

このように、地蔵盆が、閉鎖的になりがちな施設を地域に対して開ききっかけになっています。

#### ◇地蔵盆と防災訓練の連携

地蔵盆の行事の中で、消防署や自治連の自主防災会の方が来て、消火器を用いた防火訓練やAEDの使い方の指導などを行う町内があります。町内の人々が集う機会が少なくなっている昨今、地蔵盆は町内の人々が一同に会する貴重な機会です。このような機会を利用して防災訓練を行うことで、地域の防災力をより効果的に高めることができます。また、町内にとっても、地蔵盆の行事の一環として楽しみながら訓練を行うことができるため、町内と防災組織、お互いにとってメリットがあると言えるでしょう。



#### M町の地蔵盆スケジュール

##### 1日のみ

- 9:00 お飾り
- 10:00 おやつ配布
- 11:30 数珠まわし
- 12:00 昼食
- 14:00 玩具すくい、おやつ
- 15:00 ヨーヨー釣り  
わたがし等
- 16:00 お片づけ
- 19:00 ビンゴゲーム



## M 町

## case5：地蔵盆の展開 —元学区まちづくりとの連携

### ◇まちづくりの一環としての地蔵盆

京都の地蔵盆は本来、コミュニティの伝統的な単位である「町内」（両側町）ごとに行われるお祭りです。しかし近年、まちづくりの一環として「元学区」などのより広域的な単位で地蔵盆が行われています。その背景には、地蔵盆がない町内や、町内会に非加入のマンションの住民にも地蔵盆を楽しんでもらいたいという思いや、小学校の統廃合等による「元学区」の認知度や結束力の低下に対する住民の危機感があります。

### ◇元学区単位の地蔵盆の開催方式

「元学区」単位の地蔵盆では、待賢元学区の「たいけん地蔵盆」や城巽元学区の「城巽地蔵盆」の例のように、小学校だった建物や自治連合会の会館などで、町内ごとの地蔵盆と同じように数珠まわしや福引き、子どもの遊びなどを行うものがあります。その他、元有隣学区の「いきいき有隣地蔵めぐり」のように、地蔵を保有する複数の町内が連携することで子どもとその親がお地蔵さまのスタンプラリーを楽しむというユニークな取り組みもあります。

**たいけん地蔵盆**：2012年から実施。会場：元待賢小

#### 2012年度のスケジュール

- 10:00 受付開始
- 11:00 読経、数珠廻し、住職のお話
- 11:15 おやつ配付、子どもたち遊び
- 12:00 お昼（焼きそば）
- 13:00 行灯づくり
- 14:30 大道芸
- 15:00 景品渡し
- ～16:30 行灯づくり続き、後片付け
- 19:00 星空上映会



**城巽地蔵盆**：2004年から実施。会場：城巽自治会館

#### 2012年度のスケジュール

- 14:00 受付開始
- ～14:30 自由時間（輪投げ等）
- 14:30 会長挨拶
- 14:35 読経、数珠廻し
- 15:15 福引き、かき氷
- ～15:50 自由時間（おやつ配布）
- ～16:30 片付け

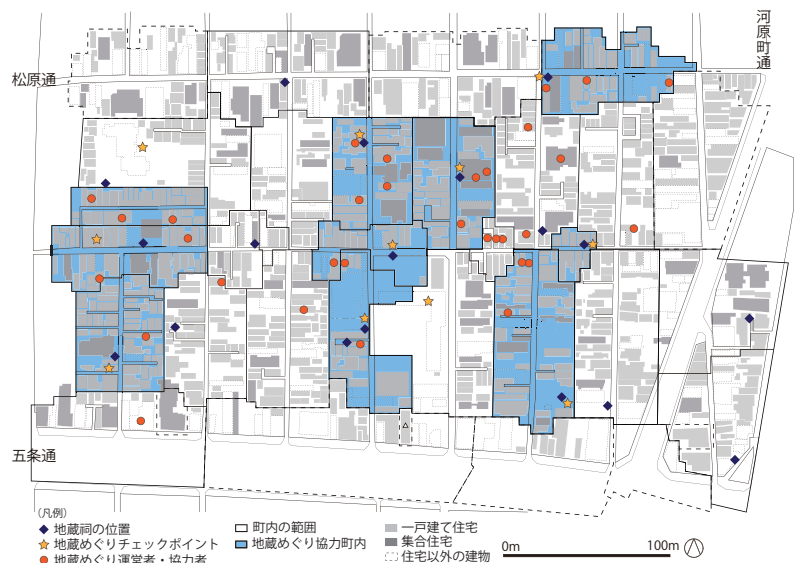


**いきいき有隣地蔵巡り**：2010年、2011年。会場：有隣元学区ほぼ全域。（2002年～2009年は元有隣小で「ふれあい地蔵盆」を実施）

有隣学区では2002年から元学区の地蔵盆に取り組んでおり、2010年と2011年は地域のお地蔵さまについてよりよく知ってもらうべく、計9町内・10カ所のお地蔵さまをチェックポイントとするスタンプラリーを行いました。また、お不動さんの落慶イベントや松原通りへの露店の出店、歩行者天国化も行い、学区外からの参加者を含め、100人以上の参加者で賑わいました。



お地蔵さんめぐりMAP



「いきいき有隣地蔵めぐり」における協力者等の分布



レジリエントなコミュニティ形成に果たす地蔵盆の役割に関する研究

[梗概]



京都市都心部における地蔵盆の開催実態と参加者の多様性  
レジリエントなコミュニティ形成における地蔵盆の役割に関する研究 その1

正会員 ○前田昌弘\*<sup>1</sup> 同 高田光雄\*<sup>2</sup> 同 西野克裕\*<sup>3</sup> 同 森重幸子\*<sup>4</sup>

7. 都市計画—地区とコミュニティ— 4b. 都心居住  
地蔵盆, レジリエンス, コミュニティ, 町内会, マンション

1. 研究の背景と目的

我々の地域社会は常に不確実な変化や危機に晒されている。そのような変化や危機に対して、基本的な性質を変化させずに適応する能力を「レジリエンス」といい、地域まちづくりの分野でも近年、「レジリエントなコミュニティの形成」が課題である。

京都の都心部には両側町を基本とした「町内」というコミュニティの単位があり、「町内会」がその運営を行ってきた。しかし近年、町内に関わりを持たない住民の増加、町内会の担い手の減少、さらには町内会の負担を担うことなくその利益だけを享受するフリーライダーの増加など、様々な問題が生じてきており、町内の弱体化は行事の廃止や簡略化など目に見える形で進んできている。

そのような行事の廃止・簡略化にも関わらず、地蔵盆という行事が多く町の町内で行われている。地蔵盆とは、8月下旬に(1)地蔵菩薩を祀り、(2)子どもを遊ばせることを基本とする行事である。地蔵盆には多世代の住民が参加し、また、地蔵盆は時代ごとに様相を変えながら続いてきた。このことから地蔵盆には、「変化への適応」、すなわち「レジリエンス」という視点から地域まちづくりの質の向上に資する役割を見いだせるのではないかと考える<sup>注1)</sup>。

そこで本研究は、京都市都心部を対象として、レジリエントなコミュニティ形成に果たす地蔵盆の役割とその要因となる地蔵盆の性質を明らかにすることを目的とする。本稿ではまず、地蔵盆の開催実態を把握し、次に、レジリエントなコミュニティ形成の要件の一つである「多様性」の獲得に地蔵盆がどのように寄与しているかについて検証する。

2. レジリエンス概念について

本研究ではレジリエンスを「あるシステムが不確

実な変化に適応し、その基本的な特徴を維持する能力」と定義し<sup>注2)</sup>、さらに、変化が起こる以前に普段から有しておくべき「潜在的な性質」と実際に変化が生じた際に必要な「即応的な能力」という2つの側面からレジリエンスを捉える(図1)。さらに既往研究<sup>注3)</sup>の成果を踏まえ潜在的な性質としてのレジリエンスの要件として「多様性」(diversity)と「冗長性」(redundancy)を想定する。多様性を「コミュニティに関わる主体の種類の数」、冗長性を「主体がコミュニティへ関わる際に複数の経路で関わりを持っている状態(経路の数の多さ)」と定義する。

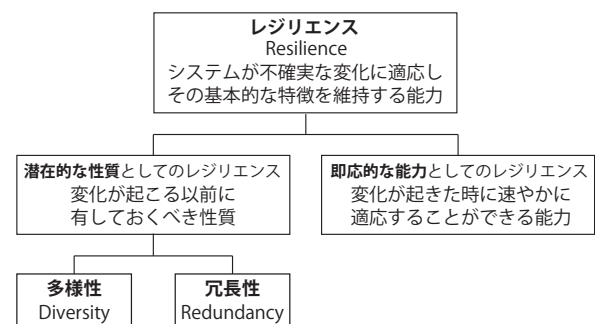


図1 レジリエンスの捉え方

3. 地蔵盆の概要と町内への関わり方のパターン

地蔵盆は京都市都心部では町内というコミュニティの単位ごとで行われ、その行事の様相は町内によって異なる。さらに社会の変化に伴い、行事の様相は常に変化している。本研究では後述の通り62の町内について実地調査を行っているが、ここでは例としてA町の地蔵盆の状況を示す(図2、写真1)。地蔵盆は町内の空間を利用して開催され、「地蔵のお飾り」や「数珠回し(地蔵の前で輪になり、読経に合わせ直径2、3mの大きな数珠を回す行事)」といった宗教的な意味合いのある行事や、「福引き」「スイカ割り」「ボールすくい」といった子どものための行事、「食事会」「ビンゴゲーム」といった親睦行事

が行われる。

地蔵盆の運営を担うのは原則として、地域運営を担う組織である町内会である。本研究では、町内会への関わり方によって町内の住人を分類する(図3(0))。さらに、それぞれの住人の地蔵盆を通じた町内会への関わり方について、地蔵盆行事の「参加」および「企画・運営」の2つの視点から分類し(それぞれ図3(1)(2))、第4章以降の分析の視点とする。なお、参加と運営という2種類の関わり方の組み合わせを考慮すると、住人の地蔵盆への関わり方は6パターンが考えられる。(図3(3))

#### 4. 地蔵盆の参加者の実態と行事の特性

##### 4-1. 調査の概要

対象地域を図4に示す。いずれの学区も京都市都心部に位置し、住民に占める共同住宅世帯の割合が高い。調査の概要は表1、表2の通りである。現地調査においては当日、参加者に対してその場で、年齢・性別・居住歴・住居の形式を尋ねる簡易なアン

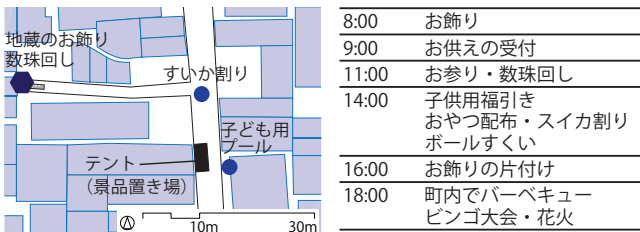


図2 地蔵盆の例(A町における開催場所とプログラム)



写真1 A町における地蔵盆の様子(数珠回しとスイカ割り)

(0) 町内会への関わり		○ …ある年度の町内会の役員		○ …町内会の運営を担わない住人	
○ …町内会の運営を担う住人		△ …町内会非加入世帯の住人			
(1) 地蔵盆行事への参加		(3) 関わり方のパターン			
● ← ○	※1 当日参加している。	● ← ○	※1 関わりなし		
○ ← ○	当日参加していない。	● → ○	参加の呼びかけ等があるが参加なし		
● ↔ ○	…当日参加している範囲	● ↔ ○	参加の呼びかけ等があり、かつ準備の手伝い等の関わりがあるが参加なし		
(2) 地蔵盆行事の運営との関わり		○ ← ○	町内会と関わりがないが参加		
● ↔ ○	※1 双方の関わりあり	○ ← ○	町内会からサービスを受け、参加		
● → ○	一方のみ関わりあり	○ ← ○	町内会からサービスを受け、かつ運営にも関わりを持ち、参加		
○ ← ○	関わりなし	○ ← ○			

※1 …○や△の場合にも同様の関わり方のパターンがある。

図3 地蔵盆を通じた町内会への関わり方のパターンのモデル

ケートも実施した。事前アンケートの結果より、約8割の町内に地蔵盆があり、その様々な管理方法が明らかになった(表3、表4)。さらに、8割以上の町内で地蔵盆が開催されており、その規模(参加呼びかけ人数)は最大135人、最少3人であり、かなり幅があることが明らかになった(表5、表6)。

##### 4-2. 地蔵盆の参加者の実態

事前アンケートより、戸建て・長屋世帯は町内会加入率が高く、地蔵盆への参加呼びかけがなされるが、一方で、マンション世帯は町内会への加入率が低く地蔵盆の参加呼びかけがされないケースが多いことがわかった。そこで、ここではマンションの住人に焦点を当て地蔵盆の参加実態をみていく。

表7は、事前アンケートから参加呼びかけ範囲が

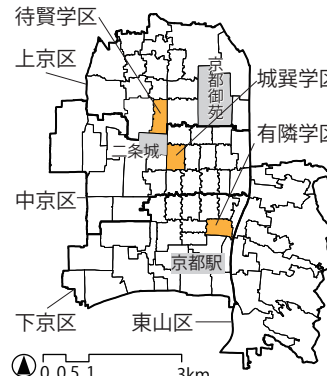


図4 調査対象の3学区の位置

表1 事前アンケートの概要

調査対象	当該の3学区における93の町内会の町内会長
質問内容	地蔵盆の管理、地蔵盆の運営、町内会の運営など
実施方法	自治連を通じて町内会長に配布、郵送にて回収
実施時期	2012年7月～8月
回収結果	81町内回収(87.1%)

表2 現地調査の概要

調査対象	当該の3元学区において当日地蔵盆を行う町内
調査内容	行事の内容・時間・場所利用、参加者の数・構成
実施方法	開催当日に研究室メンバーら(延べ58人)が訪問
実施時期	2012年8月18日、19日、25日、26日(計4日)
調査結果	計62町内の地蔵盆を調査

表3 地蔵の有無

地蔵	元学区		待賢		城巽		有隣		合計	
	町内数	%	町内数	%	町内数	%	町内数	%	町内数	%
あり	24	88.9	20	75.0	24	76.7	65	80.2		
なし	3	11.1	6	25.0	7	23.3	16	19.8		
合計	27	100.0	24	100.0	30	100.0	81	100.0		

表4 祠の有無と地蔵の管理方法

	祠の有無	待賢		城巽		有隣		合計	
		地蔵数	%	地蔵数	%	地蔵数	%	地蔵数	%
祠有り	週末又は月単位の輪番で管理	8	27.6	9	30.0	15	55.6	32	37.2
	年単位以上で特定の人が管理	10	34.5	9	30.0	6	22.2	25	29.1
祠無し	年単位以上で特定の人が保管	7	24.1	9	30.0	3	11.1	19	22.1
	町内外の寺で保管	4	13.8	3	10.0	3	11.1	10	11.6
合計		29	100.0	30	100.0	27	100.0	86	100.0

表5 地蔵盆の有無

地蔵盆	元学区		待賢		城巽		有隣		合計	
	町内数	%	町内数	%	町内数	%	町内数	%	町内数	%
あり	24	88.9	20	83.3	24	80.0	68	84.0		
なし	3	11.1	4	16.7	6	20.0	13	16.0		
合計	27	100.0	24	100.0	30	100.0	81	100.0		

表6 地蔵盆の開催規模(参加呼びかけ人数)

	待賢	城巽	有隣	全体
最大	112人	135人	83人	135人
最小	20人	13人	3人	3人
平均	約61人	約48人	約40人	約50人

わかっており、かつ実地調査で参加者への当日アンケートを回収できた町内について、マンション住人の参加状況を表したものである。さらに図5は、表7を元に町内の住人の地蔵盆への関わり方について、前章で検討したモデルを用いて表したものである。なお、ここでは町内会の運営については触れないため◎と○の住人を合わせて○と表記している。

町内会に世帯が個別で加入しているマンションがある町内（J03、J05、Y04等）では、そのマンション住人に対して参加の呼びかけがなされ、実際、多数の参加者が見られるが、町内会に個別加入している住人のみで完結している町内（図5・パターン3）も多く見られる。一方で、参加呼びかけがなされない△の住人が当日の地蔵盆行事に参加している町内（図5・パターン4）も一定数見られた。また、当日アンケートでは、「初めて参加する」という回答も少なからず見られた。これらのことから、地蔵盆が住人にとって町内へ関わる契機となっており、地蔵盆を介して町内に関わる主体が増え、コミュニティの多様性が獲得されるということが明らかになった。

#### 4-3. 多様な住人が地蔵盆行事に参加する要因

地蔵盆で行われる行事を表8に示した。「地蔵のお飾り」「僧の読経」といった宗教的な行事はほとんどの町内で行われている。それに加えて、「おやつ配布」「福引き」といった参加しやすい行事、および「ゲーム」「食事会」等の参加が選択できる親睦行事が組み合わされて、無理なく開催・参加できるプログラムとなっていることで、多様な主体が参加しやすい行事となっていると考えられる。

地蔵盆の開催場所を表9に示す。個人宅の敷地内、

個人宅の室内という回答が多く、実際に現地で確認すると、京町家のミセの間、屋外駐車場、1階ガレージといった開放性のあるスペースで行われている。またその他の場所についても、表通りや寺の境内といった公共的な空間である。祭礼空間とそれ以外で「見る－見られる」の関係ができるため、多様な主

表7 地蔵盆の参加呼びかけ範囲

学区	町番号	マンション世帯の町内会への加入	マンション住人の参加人数		全回答者数
			○	△	
待賢	T01	全戸個別加入	6	—	7
	T02	棟単位の加入あり	—	4	15
	T03	加入なし	—	1	18
	T04	棟単位での加入あり	—	0	12
	T05	加入なし	—	3	21
	T06	1棟の個別加入あり※2	9	—	34
	T07	加入なし	—	2	19
	T08	加入なし	—	0	4
	T09	マンションなし	—	—	9
	T10	加入なし	—	1	14
	T11	加入なし	—	2	14
	T12	一部世帯加入あり※3	2	—	24
	T13	棟単位での加入あり	—	0	24
	T14	加入なし	—	6	26
	T15	一部世帯加入あり※3	0	—	36
城巽	T16	加入なし	—	0	15
	T17	加入なし	—	2	12
	T18	1棟の個別加入あり※4	1	0	17
	J01	棟単位での加入あり	—	0	6
	J02	加入なし	—	0	16
	J03	1棟の個別加入あり※4	9	1	38
	J04	一部世帯加入あり	—	0	27
	J05	3棟の個別加入あり※4	9	0	22
	J06	加入なし	—	0	13
	J07	加入なし	—	0	10
	J08	棟単位での加入あり	—	0	19
	J09	1棟の個別加入あり※2	3	—	7
	J10	一部世帯加入あり※3	4	—	20
	J11	1棟の個別加入あり※2	1	—	15
	J12	加入なし	—	0	19
J13	棟単位での加入あり	—	0	19	
J14	加入なし	—	2	26	
J15	棟単位での加入あり	—	0	9	
J16	棟単位での加入あり	—	1	10	
有隣	Y01	棟単位での加入あり	—	1	11
	Y02	3棟の個別加入あり※2	2	—	11
	Y03	加入なし	—	0	26
	Y04	1棟の個別加入あり※4	11	3	31
	Y05	1棟の個別加入あり※4	20	0	37
	Y06	1棟の個別加入あり※2	5	—	14
	Y07	棟単位での加入あり	—	0	32
	Y08	マンションなし	—	—	8
	Y09	棟単位での加入あり	—	4	16
	Y10	棟単位での加入あり	—	0	27
	Y11	棟単位での加入あり	—	0	30
	Y12	マンションなし	—	(2)	32
	Y13	マンションなし	—	—	25
	Y14	棟単位での加入あり	—	0	9
	Y15	1棟の個別加入あり※4	5	0	10

【凡例】 T11 町内番号 ○…町内会に個別加入しているマンション世帯の住人 —…該当なし(町内に存在しない)  
 元学区記号 T:待賢学区 △…町内会に1棟加入 Y:有隣学区 J:城巽学区 または非加入のマンション世帯の住人  
 ●…町内会の役員(地蔵盆の世話役) →…地蔵盆の参加呼びかけ  
 ○…町内会に個別加入している世帯 ●…地蔵盆への参加が調査当日に確認できた範囲  
 △…町内会に1棟加入または非加入のマンション世帯 □…参加呼びかけ無し

【注釈】 ※1 カッコ内はマンション名が書かれていない回答者の人数。  
 ※2 マンション名は判断できず。  
 ※3 棟単位加入か個別加入か判断できず。  
 ※4 聞き取り調査等でマンション名が判明。

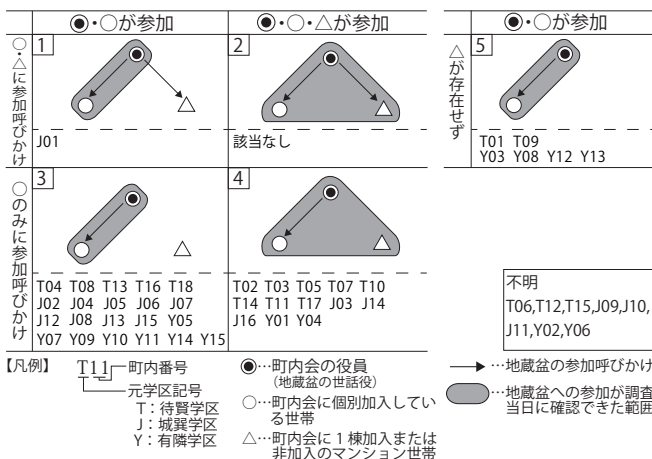


図5 地蔵盆の参加パターン



体が参加するきっかけとなっていると考えられる。

地蔵盆の例として、J03とY14の町内の地蔵盆をみる。図6に示すように、J03では、町内の道路や建物など複数の空間を利用することで町内全体が地蔵盆の会場となっている。地蔵のお飾りは京町家の土間で行い、軒先に床机を置き、数珠回しを行う。さらに、表通りにテントを設置するなど、町内全体が祭礼空間となり、多様な行事が行われる。一方、Y14は図7のように町内の規模も小さく、会場は1階のガレージの部分を使用し、僧の読経に合わせて数珠回しを行っていた。

このように地蔵盆の開催は、最低限の行事（主に宗教的な行事）と最小限の場所があればできるが、さらに様々な行事を開催し町内の空間を利用することで盛大にもできる。このように地蔵盆には「柔軟性」があり、運営の担い手の問題など個別の事情を抱える町内が、各々にとって適切な開催形態を選択することで地蔵盆は続いてきたと考えられる。

表8 地蔵盆で行われる行事（複数回答、n=68）

行事内容	元学区		待賢		城巽		有隣		合計	
	町内数	%	町内数	%	町内数	%	町内数	%	町内数	%
地蔵のお飾り	21	87.5	18	90.0	23	95.8	62	91.2		
数珠まわし	15	62.5	11	55.0	14	58.3	40	58.8		
仏僧による読経	17	70.8	13	65.0	21	87.5	51	75.0		
お寺のお参り	1	4.2	1	5.0	2	8.3	4	5.9		
おやつ配布	20	83.3	15	75.0	16	66.7	51	75.0		
お供えのお下がり配布	18	75.0	18	90.0	17	70.8	53	77.9		
子ども向けの福引	15	62.5	8	40.0	11	45.8	34	50.0		
大人向けの福引	11	45.8	6	30.0	9	37.5	26	38.8		
子どもの遊び（金魚すくい等）	12	50.0	8	40.0	9	37.5	29	42.6		
ゲーム（ビンゴ・数当て等）	12	50.0	7	35.0	12	50.0	31	45.6		
ショー・出し物	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0		
昼食会	6	25.0	4	20.0	7	29.2	17	25.0		
夕食会	8	33.3	3	15.0	2	8.3	13	19.1		
足洗い	9	37.5	10	50.0	6	25.0	25	36.8		
ホテル等での懇親会	1	4.2	0	0.0	1	4.2	2	2.9		
その他	3	12.5	2	10.0	4	16.7	9	13.2		

表9 地蔵盆の開催場所（複数回答、n=68）

地蔵盆の会場	元学区		待賢		城巽		有隣		合計	
	町内数	%	町内数	%	町内数	%	町内数	%	町内数	%
祠の周辺	4	16.7	3	15.0	3	12.5	10	14.7		
道路沿い	2	8.3	2	10.0	3	12.5	7	10.3		
路地沿い	0	0.0	1	5.0	1	8.3	2	2.9		
個人宅の敷地内	12	50.0	9	45.0	5	20.8	26	38.2		
個人宅の室内	4	16.7	12	60.0	5	20.8	21	30.9		
マンションの敷地内	1	4.2	0	0.0	1	4.2	2	2.9		
会社・倉庫等の敷地内	2	8.3	0	0.0	2	8.3	4	5.9		
お寺・神社の敷地内	3	12.5	3	15.0	2	8.3	8	11.8		
その他	2	8.3	0	0.0	1	4.2	3	4.4		

\* 1 京都大学大学院工学研究科 助教・博士（工学）  
 \* 2 京都大学大学院工学研究科 教授・博士（工学）  
 \* 3 京都大学大学院工学研究科 修士課程  
 \* 4 京都大学大学院工学研究科 研究員・修士（工学）

## 5. 結論

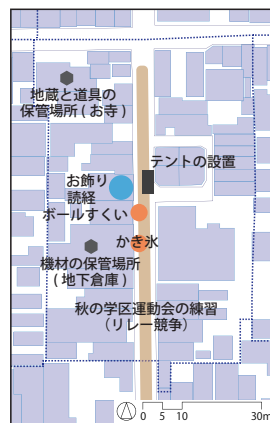
地蔵盆の参加者には、町内への関わりが一般的に持ちづらいマンションの住人等も含まれており、町内会を通じた町内への関わりをみの場合に比べて、地蔵盆を通じた地域へ関わる主体はより多様であることが明らかになった。このことから、地蔵盆がコミュニティのレジリエンスにおいて、その潜在的な性質の一つである「多様性」の獲得に役割を果たしていると言える。また、その要因として、地蔵盆における行事の多様性、開催場所の開放性・公共性があり、それらによって地蔵盆にはそれぞれの町内の事情に対応できる「柔軟性」があることを指摘した。

### 脚注

- 注1) 建築・都市計画分野における地蔵盆に関する既往研究には、コミュニティにおける地蔵盆の役割を述べた参考文献1や都市空間における地蔵盆の位置づけを述べた参考文献2などがある。  
 注2) 参考文献3の定義を主に参考にした。  
 注3) レジリエントなシステムの要件については参考文献4など、多くの文献で述べられている。

### 参考文献

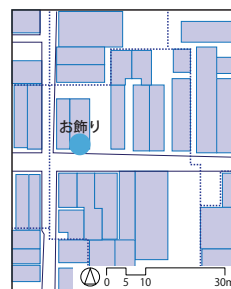
- 1) 野口美智子：近隣空間の研究－京都西陣における地蔵盆の演出空間，日本建築学会学術講演梗概集，pp. 1087-1088, 1978  
 2) 西村信治，室崎生子，森靖夫：地蔵盆を通してみた地域の子供の発達保障の空間づくりに関する研究，日本建築学会学術講演梗概集，E分冊，pp. 509-512, 1986  
 3) B. Manyena: The concept of resilience revisited, Disasters, Vol. 30 Issue 4, pp. 433-450, 2006  
 4) 京大NTTレジリエンス共同研究グループ：しなやかな社会の創造－災害・危機から生命、生活、事業を守る，日経BP企画，2009



- 8月25日(土)  
 15:00 お飾り 大人16人  
 19:00 ビンゴゲーム 50人くらい  
 8月26日(日)  
 9:00 お参り 大人31人 子供15人  
 10:00 おやつ 福引 大人22人 子供16人  
 11:00 ボールすくい  
 12:00 焼ソバ 大人25人 子供8人  
 14:00 カキ氷 大人28人 子供10人  
 15:00 片付け



図6 J03における地蔵盆（賑やかな地蔵盆の事例）



- 8月25日(土)  
 午前中 お飾り  
 13:30 数珠回し 大人9人 子供3人  
 14:15 お話



図7 Y14における地蔵盆（こじんまりとした地蔵盆の事例）

## 地蔵盆の運営からみた町内への関わり方の冗長性 レジリエントなコミュニティ形成における地蔵盆の役割に関する研究 その2

正会員 ○西野克裕\*1 同 高田光雄\*2 同 前田昌弘\*3 同 森重幸子\*4 同 山崎圭史\*1

### 7. 都市計画—地区とコミュニティ— 4b. 都心居住 地蔵盆, レジリエンス, コミュニティ, 町内会, マンション

#### 1. 研究の背景と目的

前稿<sup>1)</sup>では、地蔵盆の参加者に着目し、地蔵盆がレジリエントなコミュニティ形成の要件である地域に関わる主体の「多様性」の獲得に役割を果たしていることを明らかにした。本稿ではさらに、行事の運営という視点を加え、地蔵盆の役割について考察する。具体的には、町内における各世帯の地蔵盆の運営への関わり方の実態を明らかにし、レジリエントなコミュニティ形成のもう一方の要件である地域への関わり方の「冗長性」の獲得に地蔵盆が果たす役割を探る。さらに、町内をめぐる不確実な変化や危機に対して町内のコミュニティが地蔵盆を介して実際どのように適応してきたかを明らかにし、地蔵盆の役割について総合的に考察する。

#### 2. 地域住民の地蔵盆運営への関わり方

##### 2-1. 調査の概要

前稿<sup>1)</sup>でも述べた、本研究で調査対象とする3つの元学区の一つである有隣学区の2つの町内の各世帯

表1 アンケート調査の概要

	S町	K町
配布世帯数	45世帯 (内32世帯が町内会に加入)	150世帯 (内52世帯が町内会に加入)
質問内容	地蔵盆で参加する(した)行事、行事の運営への関わり方、参加の目的、参加のきっかけ、地蔵盆以外の地域への関わり方等	
配布方法	町内会に加入している世帯に関しては町内会を通して配布し、加入していない世帯に関してはポストイング	
回収方法	郵送、または町内会長を通じて回収	郵送にて回収
回収世帯数	20世帯(44.4%)	34世帯(22.7%)
配布日	2013年11月10日	
回収締切日	2013年12月8日	

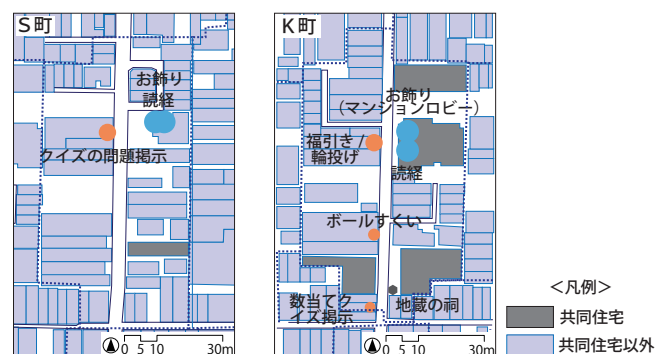


図1 調査対象2町内の建物と地蔵盆の開催場所

帯を対象に、地蔵盆や地域運営への関わり方に関するアンケート調査を行った。調査の概要を表1に、調査対象町内の建物と地蔵盆の状況を図1に示す。

S町は人口75人、世帯数45世帯(うちマンション世帯数14、棟数1)で、戸建て住宅を中心として、居住歴が長い住民が多い。2013年度の地蔵盆で行われた行事は「お飾り/お参り/数珠回し/子どもおやつ配布/卵つかみ/スーパーボールすくい/家庭用福引/クイズ/片付け/足洗い」と種類が多く、外孫も含め町内の内外から子供の参加がみられ、約50人が参加した。

K町は人口216人、世帯数150世帯(うちマンション世帯数116、棟数4)であり、マンション世帯数の割合が比較的高い町内である。2013年度の地蔵盆では、「お飾り/お参り/数珠回し/子どもおやつ配布/福引き/スーパーボールすくい/輪投げ/家庭用福引/数当て/片付け/翌日にレクリエーション」が行われ、約60人が参加した。地蔵盆当日の参加者の多さ、行事の種類が多さから地蔵盆が盛大に開催されていると言える。アンケート調査の事前に行った町内会長および古老への聞き取り調査では1棟のマンションは町内会に個別に加入し町内会に関わりを持っていることがわかった。一方で、町内会運営の担い手が減少し、町内会運営を行う住人の負担が増加していることが指摘された。

##### 2-2. 各住人の地蔵盆運営への関わり方の実態

S町の地域運営への関わり方を見てみると、「町内の3役(町内会長、副会長、会計)を担ったことがある」という回答をはじめ、どの項目についても概ね8割の世帯が関わりを持ったことがあると答えている。一方で、すべての住人が地域運営に密接な関わりを持っているわけではないということも明らかになった(図2)。回答者の8割以上が地蔵盆に参加

したことがあり、8割以上の住人が地蔵盆の運営に何らかの関わりを持っている（図3、図4）。S町は、多くの住人が古くから同町に居住し、町内会の運営や地蔵盆に関わりを持つことで町内のコミュニティを形成してきたといえる。

K町は、町内会の3役を担ったことがある住人は回答者25名のうち8名と少なかった。組長を担ったことがある住人は17名と比較的多く、地域運営への関わりが限定的である住人が多く、地域運営に全く関わりを持たない住人も半数近くいる（図5）。地蔵盆に参加したことがある回答者は、S町よりは割合が低いものの、7割を超えている（図6）。また、「地蔵盆の世話役を担ったことがある」が17名、「事前の準備に関わったことがある」「当日の手伝いを行ったことがある」という回答がそれぞれ18名見られ、地蔵盆運営を通じて町内への関わりを持っている様子が読み取れる（図7）。

図8は、回答者の町内会運営と地蔵盆への関わり方について、前稿<sup>1)</sup>で作成したモデルを適用したものである。町内会運営を担わない○の世帯が地蔵盆の企画・運営には関わっている場合があることが確認できる（S町2名、K町8名）。さらに町内会に個別加入していないが、地蔵盆を通して町内に関わりを持っている回答者がいることがK町で確認され、地蔵盆を通して町内に能動的な関わりを持つ場合があることが確認できた。特に、(1)新規居住者の関

わり、(2)単身者の関わり、(3)居住歴は長いが町内への関わりが少ない住人の関わりが確認された。町内会、自治連など一般的な地域運営組織だけでなく地蔵盆という関わりがあることで、地域との関わり

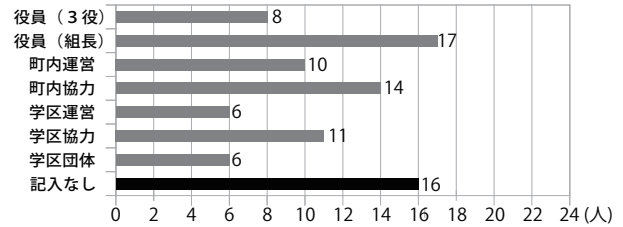


図5 K町回答者の地域運営への関わり（複数回答）

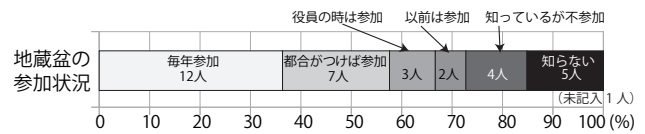


図6 K町の回答者の地藏盆への参加

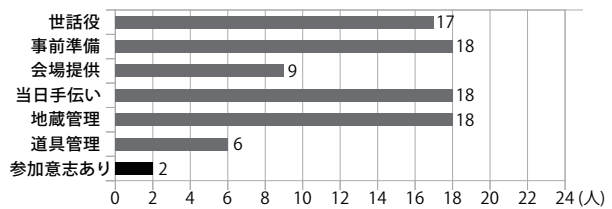


図7 K町の回答者の地藏盆運営への関わり（複数回答）

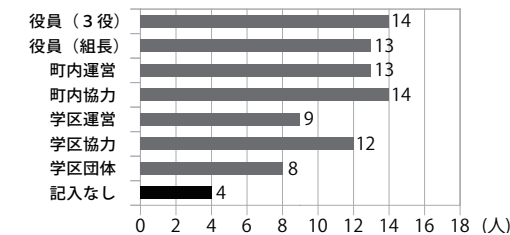


図2 S町回答者の地域運営への関わり（複数回答）

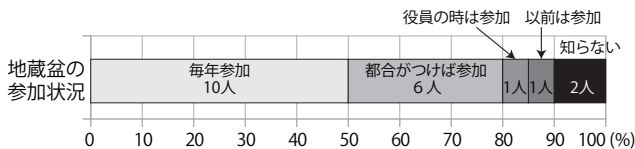


図3 S町回答者の地藏盆への参加

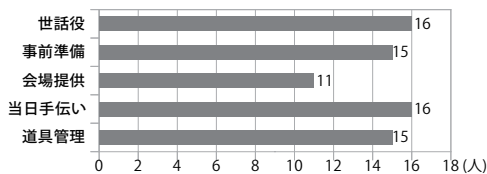


図4 S町回答者の地藏盆運営への関わり（複数回答）

参加	地藏盆への関わり		町内会の運営を担う住人(○)	町内会の運営を担わない住人(○)	町内会に加入していない住人(△)
	運営	具体的な関わり			
当日参加なし	関わりなし	—	—	—	● △ S町: 2人 K町: 9人
	一方向	参加呼びかけ等があるが、当日参加なし	● → ○ S町: 0人 K町: 0人	○ → ○ S町: 0人 K町: 1人	● → △ S町: 0人 K町: 0人
	双方向	町内会と直接関わりがないが、当日参加がある	● ↔ ○ S町: 0人 K町: 1人	○ ↔ ○ S町: 1人 K町: 1人	● ↔ △ S町: 0人 K町: 1人
当日参加あり	関わりなし	—	—	—	● △ S町: 0人 K町: 0人
	一方向	当日参加して、町内会からサービスを受けている	● → ○ S町: 0人 K町: 0人	○ → ○ S町: 1人 K町: 3人	● → △ S町: 0人 K町: 0人
	双方向	町内会からサービスを受け、運営に関わりを持ちながら参加	● ↔ ○ S町: 8人 K町: 13人	○ ↔ ○ S町: 2人 K町: 8人	● ↔ △ S町: 0人 K町: 0人

図8 回答者の地藏盆への関わり方のパターン

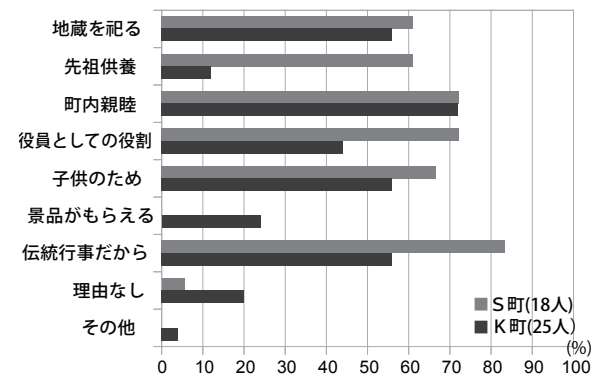


図9 地藏盆に参加する理由（複数回答）



りを持ちづらい住人も地域運営の担い手となり、結果としてフリーライダーの問題が緩和されている。地蔵盆は地域への関わり方の「冗長性」の獲得に繋がっていることが明らかになったと言える。

### 2-3. 地域への関わり方が冗長となる要因の考察

図9に示すように、地蔵盆に参加する理由についてS町では「地蔵を祀るため」「先祖の供養」「町内の親睦」「役員としての務めを果たすため」「子供のため」という回答がそれぞれ11名～13名ほど見られた。K町において参加の理由は「町内の親睦」が最も多く、「地蔵を祀るため」「子供のため」「伝統行事であるから」がこれに続く。このように、多様な回答が見られ、参加のモチベーションが異なることが関わり方の冗長性に繋がると考えられる。

## 3. 町内をめぐる変化への町内会および地蔵盆の適応

### 3-1. ヒアリング調査について

アンケート調査を行った2町内、および前稿<sup>1)</sup>で行なった実地調査で町内の変化について特徴のある発言が得られた城巽学区の3町内を合わせた計5町

表2 ヒアリング調査の概要

	O町	N町	J町	K町	S町
日時	3月23日 10時~11時30分	3月12日 13時~14時	3月13日 11時~12時	10月14日 10時~11時45分	10月19日 10時~12時
場所	Oi様宅	Ni様宅	Ji様宅	有隣小学校会議室	Si様宅
対象者	Oi様、Oii様 (古老)	Ni様(古老)	Ji様、Jii様 (古老)	Ki様(町内会長)、 Kii様(古老)	Si様、Sii様、Siii 様(古老)
実施者	発表者、 研究室研究員 2名	発表者、研究 室研究員 2名	発表者、研究 室研究員 2名	発表者、研究 室助教、修士 課程学生1名	発表者、研究 室助教、修士課 程学生1名

内でヒアリング調査(表2)を行い、コミュニティをめぐる変化、地蔵盆の変容について把握した。

### 3-2. 各町内における問題・危機と町内会の対応

ヒアリングの結果をもとに各町内の変化と町内会および地蔵盆の対応を図10にまとめた。町内をめぐる具体的な変化として、(1) 商店、自営業者の減少、(2) 少子高齢化の進行、(3) マンションや戸建て住宅の増加、(4) 社会状況の漸次的な変化、(5) 町内の共有物に関わる突発的な危機があり、それらに対してそれぞれの町内で適応できている場合と、対応に課題が残る場合があることが確認された。

### 3-3. 「変化への適応」における地蔵盆の役割の考察

住人の町内への関わり方の変化を、前稿<sup>1)</sup>のモデルを適用して表すと図11、図12、図13のようになる。

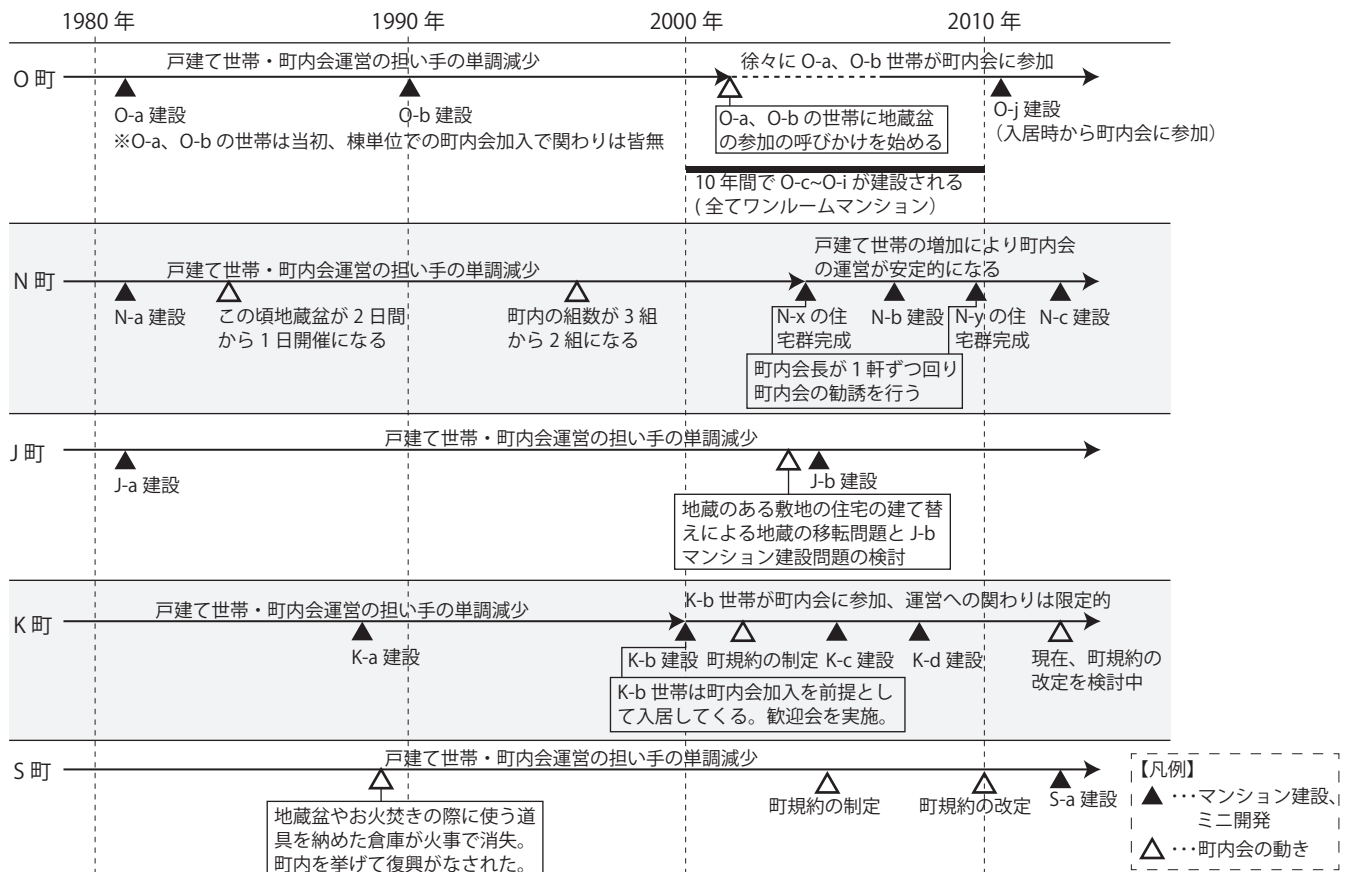


図10 町内をめぐる変化と町内会・地蔵盆の対応

0町ではそれまで町内会に関わりがなかったマンション世帯に対しても地蔵盆の参加呼びかけを行うことで、町内に関心を持ってもらい、その後、町内会への加入に繋がった。さらに、そのうち一部の世帯は町内会運営を担うようになるなどより能動的な関わりに発展した。K町では2世帯であるが、棟単位で町内会に加入しており実質的な関わりが薄いマンションの世帯が、地蔵盆を通じて町内に積極的な関わりを持っていることが確認された。S町では、転入して間もない居住者が町内会長を担い、元々の居住者たちのサポートを受け、地蔵盆の企画・運営を行い、町内に馴染んでいく様子が確認できた。

町内によって変化への適応後のモデルは異なっており、また1つの町内においても、変化に際して適切なコミュニティのあり方は刻々と変化していく。地蔵盆への関わり方のバリエーションが、そのような変化の中でコミュニティのあり方を模索していく際の手がかりとなってきたと考えられる。

また、ヒアリングでは代々続いてきた地蔵盆を自分たちの世代で絶やしてしまっはいけないという発言が得られた。この「地蔵盆を続けていくことへ

の思い」は「伝統性」と位置づけられ、前稿<sup>1)</sup>で指摘した「柔軟性」とともに、様々な不確実な変化に晒されても地蔵盆がそれらに適応しながら継続し、結果としてレジリエントな町内コミュニティ形成に役割を果たしている要因であると考えられる。

#### 4. 結論

町内会の運営への関わりが少ない住人（主にマンション居住者、新規居住者、単身者など）であっても、地蔵盆の運営には参加している場合があることが明らかとなった。このことから、地蔵盆への関わりを通じて町内運営におけるフリーライダーの問題が緩和され、また、町内への関わりにおける冗長性が獲得されていることを指摘した。さらに、町内をめぐる様々な不確実な変化に対して、町内会および地蔵盆が実際に適応している事例を具体的に検証し、レジリエントなコミュニティ形成に地蔵盆が役割を果たしているということを示した。

#### 参考文献

- 1) 前田昌弘, 高田光雄, 西野克裕, 森重幸子: 京都市都心部における地蔵盆の開催実態と参加者の多様性—レジリエントなコミュニティ形成における地蔵盆の役割に関する研究その1, 日本建築学会近畿支部研究報告集, 計画系(54), 2014

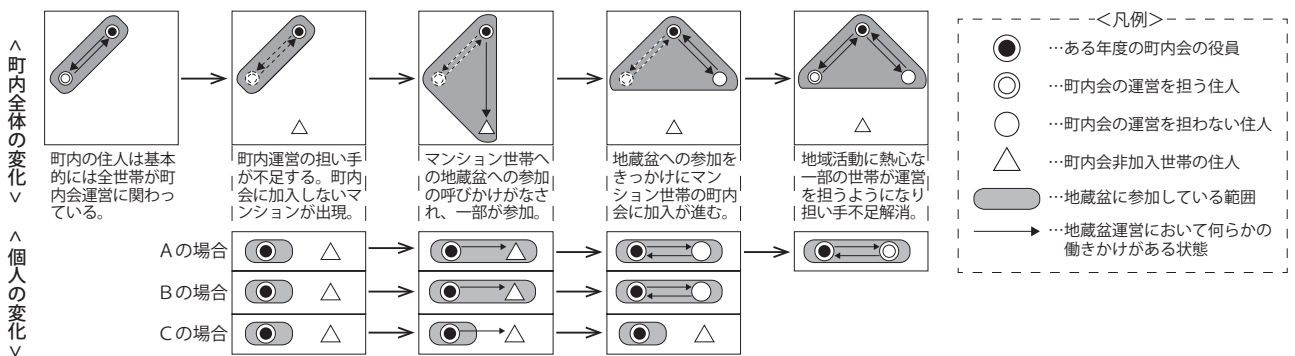


図 11 0町住人の町内への関わり方の変遷

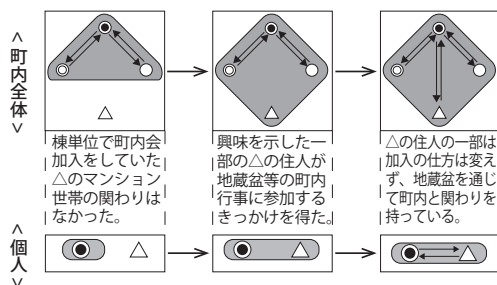


図 12 K町住人の町内への関わり方の変遷 (凡例は図 11 と共通)

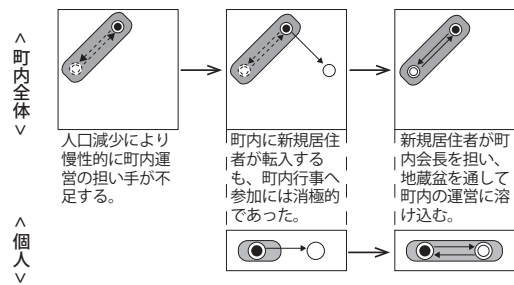


図 13 S町住人の町内への関わり方の変遷 (凡例は図 11 と共通)

\* 1 京都大学大学院工学研究科 修士課程  
 \* 2 京都大学大学院工学研究科 教授・博士 (工学)  
 \* 3 京都大学大学院工学研究科 助教・博士 (工学)  
 \* 4 京都大学大学院工学研究科 研究員・修士 (工学)

Graduate Student, Graduate School of Engineering, Kyoto University  
 Professor, Graduate School of Engineering, Kyoto University, Dr.Eng.  
 Assistant Professor, Graduate School of Engineering, Kyoto University, Dr.Eng.  
 Research Fellow, Graduate School of Engineering, Kyoto University, M.Eng.



第14回世界歴史都市会議in揚州 参加報告

地蔵盆を世界に発信しました！



京都大学 高田研究室 山崎・大森

## 第14回世界歴史都市会議



△各都市の取り組みなどの報告がありました

2014年9月2日～4日に、中国の揚州市で開催された第14回世界歴史都市会議に参加しました。世界各国から歴史都市関係者が集い、「歴史都市—文化の継承と未来への歩み—」をテーマに議論を交わしました。ラウンドテーブルでは揚州（中国）、鄭州（中国）、京都（日本）、奈良（日本）、コンヤ（トルコ）、オスマンガジ（トルコ）、ブルサ（トルコ）、バート・イシュル（オーストリア）、バララット（オーストラリア）、ルクソール（エジプト）、バグダッド（イラク）など、多くの都市から各都市における取り組みの報告がありました。



△公式エクスカージョンで訪れた瘦西湖の風景

会議日程の中で、Welcoming DinnerやYouth Forum Activity、Farewell Dinnerなどが開催され、世界各国の歴史都市関係者と交流することができました。さらに公式エクスカージョンなども設けられており、そこで訪れた瘦西湖では揚州の歴史的な街並みや風景に触れ、工芸美術館では伝統的工芸品の技術力の高さと美しさに触れることができました。

私たちは9月3日に開催されるユースフォーラムにおいて、発表およびディスカッションする目的で参加しました。若者の視点を世界に発信する機会は限られている中で、ユースフォーラムを設けるこの会議は大変貴重な機会だと考えたからです。歴史都市・京都における歴史・文化の保全と発展及び活性化の観点から私たちの意見を発信すべく参加することにしました。私たちの他には、揚州（中国）、コンヤ（トルコ）、ホノルル（アメリカ）から計6チーム、7人の参加があり、各都市における若者の意見に触れることができました。



△最終日には揚州宣言が採択されました

最終日には揚州宣言を採択し、無事閉幕しました。次回の第15回世界歴史都市会議は2016年にバード・イシュル（オーストリア）で開催されることになりました。



## ユースフォーラム



△ Youth Forum での発表

2014年9月3日に行われたユースフォーラムでは、揚州（中国）、コンヤ（トルコ）、ホノルル（アメリカ）、京都（日本）の4都市の18～40歳の青年が参加しました。

はじめに、「歴史地区の活性化」をテーマに各都市が発表を行いました。各都市がそれぞれの歴史的魅力や問題点、そして現在行われている取り組みなどについて話しました。

私たちは、京都の地蔵盆について発表しました。地蔵盆は主に子供たちのための行事として続いてきましたが、最近はマンション建設が進み、新しい住民が増えていく中で、新旧の住民が交流する場としての機能を果たしているという内容でした。

その後に行われたディスカッションでは、各国の青年たちが歴史都市の今後について意見を出し合いました。多くの都市の青年たちが、歴史的な街並みを保全すること、経済的な発展を両立させることに関心を持っているようでした。私たちは建物や街並みなどを保全するだけでなく、地蔵盆のような文化も保全していくことが地域コミュニティ及び歴史都市の活性化につながると発言しました。

ディスカッション後、Youth Forum ActivityとしてGe GardenやShuangdong Historical Street Blockなどを視察しました。これらは揚州の中でも歴史を持つ場所です。特にShuangdong Historical Street Blockは古くからのまちなみを残しつつも、新しく店舗を誘致して大変賑わっていました。案内をしていただいた揚州の方から歴史都市に対する熱い思いを感じることができました。

夜の食事会では、揚州市役所の方とともに中華料理をいただきました。都市についてはもちろん、お互いの文化や学校生活のことまで、様々なことをお話しして、親交を深めることができました。

ユースフォーラムを通じて、発表やディスカッション、視察、交流など、普段日本にはできないかけがえのない経験をすることができました。



△ Youth Forum のディスカッション



△ Youth Forum Activity で訪れた Ge Garden

## 会議を終えて

世界歴史都市会議に参加したことは大変貴重な経験となりました。世界各国の歴史都市における取組を知ることができただけでなく、直に取り組んでおられる方々と交流することができました。他の都市・他の文化への理解を深め、国境を越えて人と人とのつながりを育むことの大切さを知ることができました。

ユースフォーラムにおいて、「地蔵盆」をテーマとし、コミュニティによる歴史都市の活性化について発表できたことは、京都の歴史・文化の保護や発展に対する先進性の一端を示せたと思います。また各都市における現状と課題、対策などに対する若者の視点を知ることができ、大変勉強になりました。各歴史都市において次世代を担う彼・彼女らの強い意志と高い行動力に触れたことは、京都および日本を代表して参加した私にとって大きな刺激となりました。

この貴重な経験を活かし、今後の成長につなげていきたいと思います。(山崎)

世界歴史都市会議に参加した3日間で、私は多くの発見や気づきを得られました。

特に印象に残っているのはやはり、ユースフォーラムです。発表では、私たちは地蔵盆について話しましたが、海外の都市の方もそれぞれの文化や歴史的背景に基づいた都市の現状、取り組み、問題について発表していらっしゃる、多様性を感じることができました。一方、ディスカッションでは、どの都市の方たちも「歴史都市の保全と経済の発展の両立」に課題を感じており、よりよい都市を目指すために、それぞれの観点からの解決策を考えているということが共通していました。普段、私は京都フィールドとして研究しているのですが、歴史都市に対して真剣に取り組んでいる海外の同年代の人たちの意見は非常に新鮮でしたし、刺激的でした。

今回の経験がきっかけとなり、海外の歴史的都市にも以前よりさらに関心を持つようになりました。もっと様々な都市について調べ、実際に足を運んで話を聞き、京都の研究にも生かしていきたいと思います。(大森)



△ユースフォーラムにて発表後の記念撮影（右から2人目が山崎、1人目が大森）



「地蔵盆は地域の人間関係を守る」

世界歴史都市会議 ユースフォーラム

京大院生が意見発表

【揚州市（中国）報道部  
 高橋晴久】中国江蘇省の揚州市で開催中の世界歴史都市会議で、青少年による会議「ユースフォーラム」が3日午前、開かれた。世



ユースフォーラムで地蔵盆について発表する山崎さん（左）と大森さん＝揚州市のホテル

界の4都市6チームの若者が参加し、京都市から派遣された京都市立大学の学生チームは地蔵盆が地域コミュニティの維持や活性化に果たす役割について発表した。

た。

発表したのは、工学研究科で建築学を専攻する山崎圭史さん（24）と大森聡子さん（24）。2人が所属する研究室では地蔵盆も研究対象としており、「学生が世界に発信できる機会はなかなかない」としてユースフォーラムへの参加を決めた。

2人は英語で、地蔵盆は主に子どもたちのために営まれてきた行事だったと説明。その上で、マンション建設が進み新住民が増えた近年は新旧住民が交流する場としてコミュニティ強化の機能も果たしていると指摘した。

大森さんは「地蔵盆はお年寄りから子どもまで幅広い年代が参加する。現代の人間関係を維持するとともに、地域の歴史や文化を守る機会にもなっている」と意義を話した。

フォーラムは18〜40歳を

対象としており、京都市のほか、揚州市3チームと米国のハワイ市、トルコのコンヤ市の各1チームが歴史遺産の保護における課題などについて報告した。

京都新聞 2014年9月3日 夕刊

ユースフォーラムでは、他の都市が歴史地区の保存やリノベーション、開発といったハード面での課題や対策を報告したのに対し、地蔵盆のようにソフト面からの活性化を報告したのは京都市だけだった。それはユースフォーラムの傍聴者にも新鮮に映ったようで、一定の評価が得られたように思う。

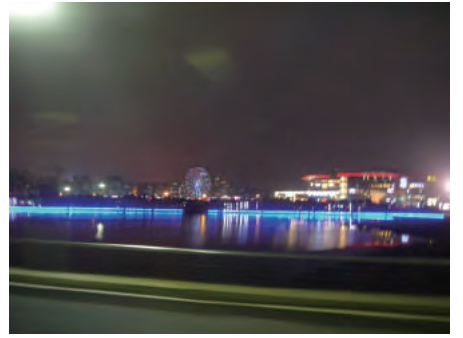
世界歴史都市連盟事務局長で今回の会議の取りまとめ役だった柴田氏が、「地蔵盆のような行事を行う都市は他にもあるか」と各都市に呼びかけたが、明確な回答がなかったのは残念。



— 9月1日 —



—移動日



— 9月2日 —



—開会・歓迎会(会議1日目)



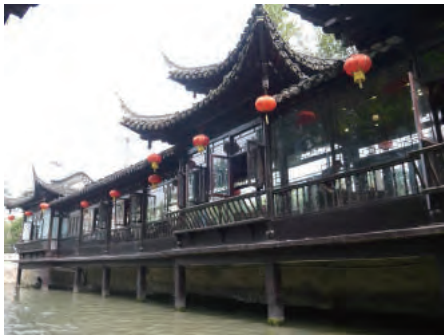
— 9月3日 —



—ユースフォーラム(会議2日目)



— 9月4日 —



—揚州市内視察・閉会・送別会(会議3日目)



— 9月5日 —



—上海市内視察



# レジリエントな地域コミュニティづくりにむけた 地蔵盆 × まちづくりに関する研究・活動

2015年3月発行

発行：京都大学大学院工学研究科建築学専攻居住空間学講座

〒615-8540 京都市西京区京都大学桂C1棟

TEL / FAX 075-383-3278

監修者：高田 光雄（京都大学大学院工学研究科 教授）

執筆者：前田 昌弘（京都大学大学院工学研究科 助教）

西野 克裕（元・京都大学大学院工学研究科 修士課程）

山崎 圭史（京都大学大学院工学研究科 修士課程）

大森 聡子（京都大学大学院工学研究科 修士課程）

印刷所：有限会社 レイ・プリンティング

**地蔵盆調査員**（京都大学高田研究室。所属は調査を実施した当時のものも含む。）

## Staff

高田 光雄（教授）  
前田 昌弘（助教）  
森重 幸子（研究員）  
長谷川 直子（秘書）

## Student

伊東 俊亮 石田 洋輝 小川 綾 サキャ・ラタ 土井 脩史 安福 賢太郎  
片岡 勇人 牛山 あやか 織田 幸司 趙 賢株 野原 俊介 矢谷 百代  
西野 克裕 江川 知里 亀田 学 菅井 牧子 福地 崇洋 Carmitz Matias  
山崎 圭史 太田 詞子 金海 梨 鈴江 悠子 藤田 麻由実 Wallin Drew Kent  
田中 哲 大森 聡子 久保 由華 関川 華 村田 真吾

## 調査協力

有隣自治連合会 有隣まちづくり委員会  
城巽自治連合会  
待賢住民福祉連合協議会 待賢まちづくり委員会  
各町内会会長、地蔵盆世話役、住民の方々

（公財）大学コンソーシアム京都  
京都市文化市民局地域自治推進室  
（公財）京都市景観・まちづくりセンター

\*本冊子の元となった調査・研究の一部は、2012年度「未来の京都創造研究事業」（公益財団法人大学コンソーシアム京都と京都市の共催）による助成を受けて実施したものです（指定課題：地蔵盆などの地域の伝統行事の現状と地域コミュニティ活性化への影響）。

